

自然遊学館 だより

1998秋号 (No. 16)

1998. 8. 20

水辺の楽校

と き 1998年7月24日(金)~25日(土)

ところ 貝塚市木積3488 松葉荘・標高110m

講 師 淡水魚研究家 君塚芳輝氏

参加者 スタッフ 21名・小学生 33名

「水質ワーストワンの近木川で水辺の楽校ができる!」。昨年につづいて開催することができました。

募集は「2年生以上の小学生30名」としましたが、キャンセル待ちの人気。

スタッフは講師の君塚先生、自然遊学館の職員のほかにボランティアの近木っ子会議の先生方、自然生態園つくる会のメンバー、近木っ子OB、です。

川の水は冷たくて、水から出ると唇真っ青、身体はがたがた震えます。宿舎のおじさんの熱いお茶の差し入れに「こんなおいしいお茶飲んだことない!」。食事、着替えなどには予想以上に手が掛かりましたが、透き通った川で、ヨシノボリやカワムツと一緒に泳ぎ、飛び込み、暴れ回る子どもらを眺めているだけで幸せな気持ちになりました。(編集子)

(1) 近木川(峠橋付近)の水辺の生きもの「水辺の楽校」では、水中で泳いでいる魚をネットですくったり、小石をめくり返して水

生昆虫をネットで捕まえて、どんな生きものが暮らしているかを調べました。

水中を泳いでいるたくさんの魚はカワムツです。そして、普段は用水路や下流に生息するモツゴも、なぜか1匹確認しました。水底にいる魚はカワヨシノボリで、石の裏に産みつけられた卵をオスが保護しているのも見つけました。カワヨシノボリは宿に戻ってから、揚げて食べてみましたがなかなかの美味でした。

昆虫ではトンボのヤゴが目立って採集できました。

その他カニ、エビ、貝も昨年と同様観察することができました。

魚類: カワムツ、カワヨシノボリ、
モツゴ

昆虫: コヤマトンボ
コオニヤンマ
ダビドサナエ
オジロサナエ
サナエトンボ SP
ヘビトンボ

甲殻類: サワガニ、モクズガニ
スジエビ、ミナミヌマエビ

貝類: カワニナ

(山田 浩二)

(2) ベイトトラップで採集した

アリについて

水辺の楽校で、ネクター、カルピスをベイトにしたトラップを松葉荘周辺に設置して昆虫採集を行いました。子どもたちは、空き地周辺や川原など「そんなところにしかけてもあかんのになあ。」と思われるようなところでも熱心にトラップをしかけていました。ある子どもは、アリの巣穴付近にわざわざトラップをしかけていたので、「アリの大漁やな。しかし、あとの処理がたいへんやぞ。」と、どきどきしながらもわくわくしていました。

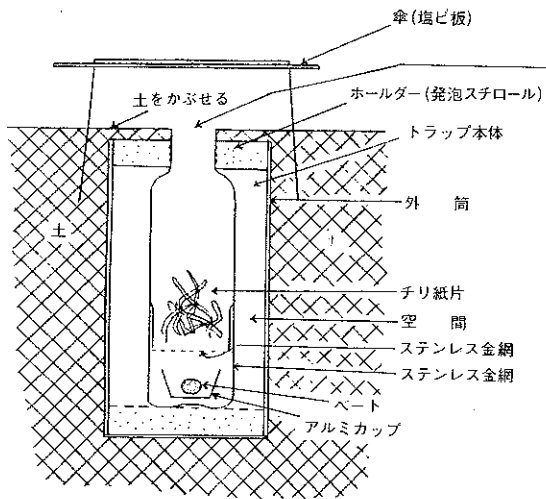


図40.加藤式押込型ベイトトラップの構造と設置のし方(桜井1974より)

翌日、予想通りにアリがたくさんビニールコップの中に入っていました。

調べてみると、一番大きいアリは、クロオオアリで女王アリは約3 cmもありました。そして一番小さいものは、トフシアリで約1.5mmでした。

トラップにかかったアリ

ヒトフシアリ亜科

- ・クロオオアリ (69匹うち1匹は女王)
- ・ヤマトアシナガアリ (256)
- ・クロヤマアリ (93)
- ・ハヤシクロヤマアリ (16)
- ・ヒゲナガケアリ (5)
- ・クサアリモドキ (女王1)
- ・アメイロアリ (1036)

フタフシアリ亜科

- ・アミメアリ (113)
- ・トビイロシワアリ (245)
- ・ハリナガムネボソアリ (6)
- ・ウメマツアリ (1)
- ・トフシアリ (7)
- ・キイロシリアゲアリ (12)
- ・ウロコアリ (1)

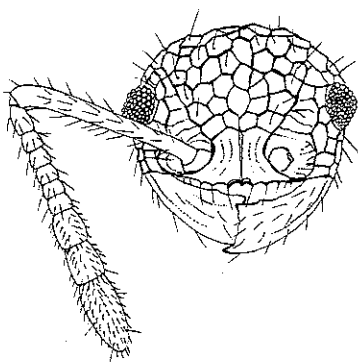
ハリアリ亜科

- ・オオハリアリ (3)
- ・マドナシハリアリ属の女王 (1)

以上の16種類が採集されました。予想以上に種類が多かったので、驚きました。アリの種類を、見分けるためには双眼実体顕微鏡が必要ですが、今回は、アリの数が多すぎて大変でした。クロヤマアリとハヤシクロヤマアリは、とても、よく似ています。ハヤシクロヤマアリの方が、少し体が大きくて、クロヤマアリよりも黒っぽい感じですが、きちんと区別するためには、腹部第2節背面にある立毛の数を数えなければいけません。そのために、1匹1匹を双眼実体顕微鏡で調べていきました。同じように、ハリナガムネボソア

りとトビイロシワアリも大変よく似ているので、触覚の付け根部分やとげの長さを調べていきました。もっとも、時間をとったのは、アメイロアリの数をカウントすることと、キイロシリアゲアリと区別することでした。アメイロアリは1000匹以上もいて、体色はキイロシリアゲアリと似ています。肉眼でも、腹部の形や色で区別できますが、体の小さいアメイロアリは、キイロシリアゲアリとよく似ているので、実体顕微鏡で同定していきました。

今回のことから、ベイトトラップで採集したアリを調べるのは、とっても大変なことがわかりましたが、いろいろなアリをいっぺんに捕まえることができるので、おもしろいかもしれません。また、トラップにはかからなかったけれども、トビイロケアリやルリアリ、ウメマツオオアリがコナラやシリブカガシの幹にいました。もっと、よく調べてみるとたくさんのアリの仲間が住んでいるようなので、機会があれば、調べてみたいです。



アミメアリ

(平峰 厚正)

(3) 灯火採集

7月24日(金)水辺の楽校の行事の一つとして夜間採集(灯火)を行った。つゆ末期のこととて日中の天気は今一つ、大雨警報が出ていたが幸い雨にはあわず、ときどき雲間から夏の太陽が照りつけるまあまあの天気であった。松葉荘の付近ではセミの声がにぎやかで、クマゼミ、アブラゼミ、ニイニイゼミによるせみしぐれ、それに夕刻にはヒグラシが加わる。プールの水中ではツチガエルが鳴き、付近の木立ではイカルのさえずり(翌早朝)が聞かれた。

夜間採集の頃は曇りで無風、気温も高く、条件としてはよかったが、トビケラ、カゲロウの類が多少飛来したぐらいでガ類の飛来は少なく、次のようなものであった。

ハマキガ科：セウスイロハマキ(保田博士同定)、スヒロキバガ科：ナナホシスヒロキバガ、カギバガ科：ウコンカギバ、ドクガ科：ナチキシタドクガ、ミノモマイマイ(2)、ヒトリガ科：チャオビチビコケガ(数頭)、ヤガ科：ベニモンヨトウ、アミメキシタバ、クロシオキシタバ、シャクドウクチバ、オオトウアツバ。

このうち、ナナホシスヒロキバガ、ナチキシタドクガ、ミノモマイマイ、アミメキシタバ、オオトウアツバは貝塚市で初めてのものである。このほか、アカイラガ(数頭)ナシイラガ、ヤママユ、オオトモエが飛来した。

今年はヤママユが増えているとみえ、木立の枝先に黄緑色のまゆを幾つか見受けた。

(黒子 浩)

バードウォッチング 水間公園周辺

1998年5月23日（土）

朝からうすぐもりの天気であるが、大変暑い1日であった。まだ5月だというのに今日の大阪の最高気温は、31度であつたらしい。

午前10時、水間公園ジャンボすべり台横に集合。参加者は51名。講師の中村進先生（府立泉南高校教諭）は、和歌山県粉河町より車で葛城山を越えて駆けつけていただいた。

集合場所近くのクスノキの梢で数羽のヒヨドリが、大きな声でたわむれている。姿は見えないが遠くにウグイスの声を聞きながら、水間公園裏山のコナラ林へ入り、講師の中村先生の説明を聞きながら、目と耳をすました観察を始める。

シジュウカラは、小型の活発な鳥で白いからだに黒いネクタイもようがあり、メスは広いネクタイ、オスは細いネクタイをしている。ギーキッキッと扉のきしむような鳴き声はコゲラである。キツツキのなかまで枯れ木、に穴をあけて巣を作るとのこと。

姿は見えないが、「一筆啓上火の用心」とか「源平つつじ白つつじ」の鳴き声はホオジロであるが、今のこどもには「サッポロラーメン、ミソラーメン」とも聞こえるらしい。

あの小さな身体で小さな肺で、あんなに長く息継ぎもなく鳴き続けられるのは、不思議であるが、中村先生のお話では口笛を吹くのと同じ事で、息をはくときにも吸うときにも音を出せるので、息継ぎをせずに長くつづけて鳴くことができるとのこと。

コナラ林をひとまわりし、尾根筋へでる。

ヤマザクラの幹にクワガタを見つけたこどもあり、体長数cmのヒラタクワガタである。

遠くにメジロの高鳴きを聞きながら、尾根筋を下り遍正寺まで来る。前方の視界が開け、眼下に馬場の町並みと遠くに水田、竹林などが続いている。前方からセキレイの鳴き声が聞こえるが、なかなか姿は見つからない。中村先生はすばやく、100mほど前方の屋根の上の高いアンテナにとまっているキセキレイを見つけてくれる。今回は貝塚ロータリークラブよりご寄贈いたしていた野鳥観察用望遠鏡・三脚（2セット）を使って観察できたが、これを使うと遠くの小鳥がすぐ間近に手に取るようにはっきりと見ることができる。よく探すとムクドリ・スズメなどもアンテナにとまっている。遍正寺橋を渡り、菟谷川に沿った道を上流へ向かう。先週は雨が多かつたためか菟谷川は水も多くきれいな流れである。カワムツが群をなして泳いでいる。姿は見えないがカジカの鳴き声が聞こえてくる。美しいカワセミの姿も見ることができた。空高くにはトンビが舞い。そのうちに大型サギのアオサギが、川面を下っていった。遠くの林と田植え前の水田をムクドリの群が行き来している。

12時15分、三味奥池下の木陰で昼食をとる。午後は1時から朝来た道を引き返す。川の向こうにセグロセキレイの親子連れを見る。幼鳥はまだ灰色のからだで、親鳥にエサをねだるが、追っ払われている。親鳥は2・30m離れた所でようすをうかがっていたが、幼鳥が遠くへ飛び立つと、あとを追って遠くへ行ってしまった。

帰り道は、昆虫や植物を見ながら朝来た道を引き返し、2時30分水間公園で解散した。

今日観察できた鳥は、次の15種であった。

・ヒヨドリ・ウグイス・コゲラ・ツバメ・シジュウカラ・ホオジロ・メジロ・スズメ・キセキレイ・ムクドリ・カワセミ・トンビ・ハシボソガラス・セグロセキレイ・アオサギ

(上久保 文貴)

この観察会では、先般貝塚ロータリークラブより寄贈された2台の望遠鏡（ズーム付き）が威力を発揮しました。紙上を借りて貝塚ロータリークラブ様にお礼申し上げます。

和泉葛城山頂における 灯火採集

と き 1998年7月4日(土)

実施時間 午後7:30~9:00までの1時間半

と ころ 和泉葛城山

標高857m

参加者 46名(スタッフ9名を含む)

本年7月4日葛城山頂上において灯火による夜間採集を行なった。当日は快晴で、下界では日中の最高温度は33.6℃で平年より4.4℃も高く、グロッキー気味であったが、頂上付近では日没前後になると、22~23℃で、そよ風も加わり快適な気温であった。付近一体にはウグイスが多く、その鳴声に混じってホト

トギスの声も盛んであった。日が傾きかける

と一斉にヒグラシが鳴き始め涼感を添える。

頂上の木立に当る日の色が赤味を増す頃、ブナの梢付近を何頭かの小型のチョウが追いつ

追われつして飛び回っている。その中の小型の2頭はムラサキシジミであることを確認したが、これより大きめのものはミズイロオナ

ガシジミの可能性がある(西村恒一氏のご教示による)という。参加者の一人はアオバセ

セリをものにした。なお茶店から頂上の八大龍王神社にいたる石段上でオサムシやヒサゴ

ゴミムシの仲間、コガネムシ、ハネカクシなどの昆虫の死骸が多数見つかった。茶店の人

に聞いたところ、昨日マツクイムシ防除のため殺虫剤をまいた(一部は空撒)とのことであ

った。他県の行為とはいえ、頂上付近のしかも天然記念物のブナ林内での殺虫剤散布は理解に苦しむ。

当夜は快晴で半月が中天にかかり、恵まれたコンディションではなかったが、北海道から本州中部の寒冷地に産するヒメセスジノメイガ、山地性で幼虫がブナの葉を食べるエゾカギバ、めったに採れないオオツノトンボなどが採れた。採集種は次のようである。

チョウ目

ボクトウガ科:ゴマフボクトウ

イラガ科:ナシイラガ, イラガ

メイガ科:マエアカスカシノメイガ, ヒメセスジノメイガ

カギバガ科:エゾカギバ, ウスギヌカギバ,

アシベニカギバ

シャクガ科:テンツマナミシャク, セスジナ

ミシャク、ウスキオビヒメエダ
シャク、シロツバメエダシャク

カレハガ科：ギンモンカレハ

カイコガ科：オオクワゴモドキ

スズメガ科：サザナミスズメ

シャチホコガ科：バイバラシロシャチホコ，
アオセダカシャチホコ

ヒトリガ科：ムジホソバ

ヤガ科：クロクモヤガ，シロモンヤガ，テン
オビヨトウ，シロホシキシタヨトウ，
シマカラスヨトウ，ミドリリング，
アオスジアオリング，ツマトビコヤ
ガ，オオエグリバ，アカテングチバ，
ハガタクチバ，キマダラアツバ，ニ
セミカドアツバ，ヤマガタアツバ

アミメカゲロウ目

ツノトンボ科：オオツノトンボ

この他付近で、トンボ目のコオニヤンマ、
コヤマトンボが採れている。

セミはヒグラシのほかにニイニイゼミの声
も多くはないが聞かれた。

このほか、保田淑郎博士（ハマキガ科専攻）
の採集、同定による次の4種を追加する。

ハマキガ科：アカオビハマキ，1♂；チャ
モンシロハマキ，1♂；アシプトヒメハマキ，
1♂，1♂；ネジクロヒメハマキ，1♂。

（黒子 浩）

貝塚市二色パークタウン

・産業団地の植物

二色パークタウン及び二色産業団地を中心
とする埋立地は、二色の浜環境整備事業とし
て二色の浜保全、大阪湾の水質汚濁防止、貝
塚市地域の環境整備等を目的として約252ha
（76万坪）の土地が造成され、新しいまちづ
くりが行われた。工事は昭和53年に着工し、
昭和61年～平成2年までに順次埋立竣工し、平
成元年には「まちびらき」が行われ、本年は
その10周年になる。新しく造成された土地で
あるが、10年を過ぎるとまちの緑も濃くなり、
路傍や空き地の雑草にもしだいに多様なもの
が見られ、安定した環境になりつつある。

まちびらき10年を期に、現在のこの地の植
生を記録にとどめ、今後の変化を知る上での
資料とするために、本年度の調査を進めてい
る。調査はどんな植物が生育しているか、生
育植物をすべてリストアップする方法で行っ
た。今回は5・6月に調べたものについての
報告である。

〔調査結果〕

生育植物の科別リスト (10.5.5)

(10.5.8)(10.5.10)(10.5.15)(10.6.21)

きく科…ハハコグサ・コセンダングサ・ヨモ
ギ・ノゲシ・セイヨウタンポポ（婦）・セイ
タカアワダチソウ（婦）・ヒメジョオン（婦）
・ナルトサワギク（婦）・アレチノギク（婦）
・トゲジシャ（婦）・チチコグサモドキ（婦）
・ヒロハホウキギク（婦）・アキノノゲシ・
チチコグサ・ブタナ（婦）・オオアレチノギ
ク（婦）・オニタビラコ・タチチチコグサ

(婦)・アカミタ ポポ(婦)・キヌゲチチ
コグサ(婦)・アメリカオニアザミ(婦)・
ノボロギク(婦)・マメカミツレ(婦)・オ
オオナモミ(婦)・ヒメムカシヨモギ(婦)
ききょう科…キキョウソウ(婦)

ヒナギキョウ

おおばこ科…ツボミオオバコ(婦)

オオバコ

ごまのはぐさ科…タチイヌノフグリ(婦)・
マツバウンラン(婦)・ムシクサ・オオイヌ
ノフグリ(婦)

なす科…イヌホウズキ

しそ科…ホトケノザ

くまつづら科…アレチハナガサ(婦)

むらさき科…キウリグサ・ハナイバナ

ひるがお科…ヒルガオ・コヒルガオ・アメリ
カネナシカズラ(婦)

あかね科…ヘクソカズラ・ヤエムグラ

りんどう科…ベニバナセンブリ(婦)

さくらそう科…アカバナルリハコベ(婦)

せり科…ノチドメ

うこぎ科…メダラ

あかばな科…コマツヨイグサ(婦)・アレチ
マツヨイグサ(婦)

すみれ科…スミレ・ヒメスミレ

ぶどう科…ヤブガラシ

とうだいぐさ科…アカメガシワ

ふうるそう科…アメリカフウロ(婦)

かたばみ科…カタバミ・アカカタバミ
・ムラサキカタバミ(婦)・オッタチカタバ
ミ(婦)

まめ科…シロツメクサ(婦)・シロバナシナ
ガワハギ(婦)・コメツブウマゴヤシ(婦)

・アレチヌスビトハギ(婦)・ネコハギ・カ
ラスノエンドウ・クズ・スズメノエンドウ・
カスマグサ・メドハギ・コメツブツメクサ
(婦)・クスダマツメクサ(婦)・シャグマ
ハギ(婦)・シナガワハギ(婦)・ミヤコグ
サ・ヤハズソウ

ばら科…ノイバラ・オキジムシロ(婦)

あぶらな科…マメグンバイナズナ(婦)

ナズナ

けし科…タケニグサ・ナガミノヒナゲシ(婦)

どくだみ科…ドクダミ

あかざ科…シロザ・ケアリタソウ(婦)・ウ
ラジロアカザ(婦)

なでしこ科…ツメクサ・シロバナマンテマ
(婦)・オランダミミナグサ(婦)・ノミ
ツツリ・ウシオツメクサ(婦)

たで科…ギシギシ・アレチギシギシ(婦)
・スイバ・イタドリ・ヒメスイバ(婦)
・サナエタデ

いらくさ科…カラムシ

にれ科…アキニレ

あやめ科…ニワゼキショウ(婦)

いぐさ科…スズメノヤリ

つゆくさ科…ツユクサ

かやつりぐさ科…クサイ・コウボウシバ・メ
リケンガヤツリ(婦)

いね科…イヌムギ(婦)・ギョウギシバ・
ナンカイヌカボ(婦)・ネズミムギ(婦)
オニウシノケグサ(婦)・ナギナタガヤ(婦)
・ヨシ・チガヤ・カモジグサ・アオカモジグ
サ・ヒエガエリ・ホソムギ(婦)・スズメノ
チャヒキ・ススキ・シマスズメノヒエ(婦)
・スズメノカタビラ・ケイヌビエ・クロコヌ

カグサ（帰）・ヒメコバンソウ（帰）・エノコログサ・キシユウズメノヒエ（帰）・ネズミノオ・ナガハグサ（帰）・ハナヌカススキ（帰）・カモガヤ（帰）・メヒシバ・ボウムギ（帰）

がま科……ヒメガマ

とくさ科…スギナ・イヌドクサ

〔まとめ〕

今回の調査では、37科132種の植物が見られたが、科別にみると次の表のように、いね科、きく科のものが多く、この2科で52種、全体の約39%を占めている。

科別の種数 ()内は帰化植物

いね科	27 (14)
きく科	25 (18)
まめ科	16 (8)
たで科	6 (2)
なでしこ科	5 (3)
その他	53 (21)
合計	132 (66)

埋立地として新しく造成された土地のため、帰化植物が多く（66種）帰化率（帰化植物の全体に占める割合）は50.0%と高率である。なかでも種子が風で散布されるものが多いきく科植物では25種のうち18種が帰化植物で帰化率は約72%に達している。

注目すべきものとしては、大阪府下では比較的新しい帰化植物で、しだいに広がりを見せているアメリカオニアザミ（きく科）ナルトサワギク（きく科）、キヌゲチチコグサ（きく科）、ナンカイヌカボ（いね科）などがある。

また、府下ではまだ新しい帰化植物のシャグマハギ（まめ科）、ハナヌカススキ（いね科）

がパークタウンの歩道及び空き地の一面に群生しているのが見られた。

二色産業団地の埋立後、未整備の状態で放置されている所でも、まだ新しい帰化植物のアカバナリハコベ（さくらそう科）や海浜植物のコウボウシバ（かやつりぐさ科）も見られるようになっている。

（上久保文貴 湯浅幸子 清水千尋）

遊学館で飼育している昆虫<5>

当館の常設の3つのケージでは現在、オオカマキリ、キリギリス、およびクワガタムシを飼育しています。クワガタムシは、コクワガタ、ヒラタクワガタ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、アカアシクワガタ、オオクワガタの6種を飼育しています。コクワガタとヒラタクワガタは、ケージの中で昨年からの繁殖させて今年の夏に羽化したものと野外から採集してきたものが混じっています。ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、アカアシクワガタは、野外から採集してきたものだけです。オオクワガタは、一昨年の夏、泉佐野市在住の林好則さんに頂いた3ペア（成虫のオスとメス）から、当館の標本室などで繁殖させたものです。去年の夏は羽化した個体が少なすぎて飼育展示に回すことができませんでしたが、今年は数は少ないながらも何とか飼育展示できるようになりました。今年羽化した個体は今のところ5個体ですが、すべてメスで、オスはまだ羽化していません。

（岩崎 拓）

自然遊学館の

ニューフェイス紹介

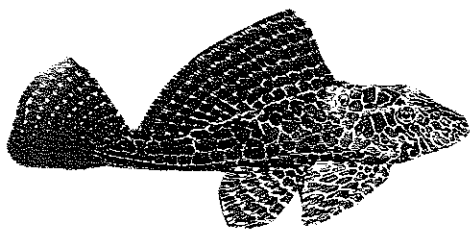
(魚編)

最近、新しく遊学館にやって来て展示飼育されている魚の一部を紹介します。会いに来てみて下さい。

【淡水魚】

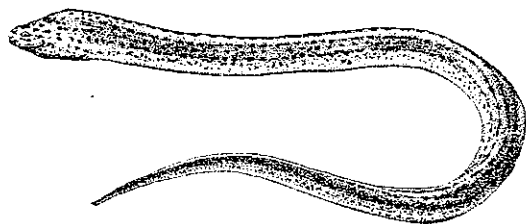
● パイレーツプレコ (ナマズ科)

貝塚市立東小学校6年3組で2年間飼育されて大きくなり、1998年3月30日自然遊学館にやってきました。水槽につく藻類を食べてくれるので、掃除が助かっています。南米原産。



● タウナギ (タウナギ科)

1998年6月7日、貝塚南高校横の用水路で貝塚市役所交通公害課の堀真治さんらが採集。エラは退化しており、水面に顔を出し空気呼吸をする。原産地はアジア大陸東南部で、日本では移入されて繁殖しました。



● ナマズ (ナマズ科)

1998年6月15日、泉南市上之郷の檜井川中流で二色小学校6年生の松谷賢君が釣り上げたものです。夜間によく活動し、魚、エビ、カエルなどを食べます。



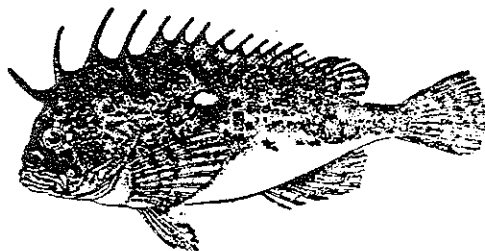
【海水魚】

● ハオコゼ (ハオコゼ科)

● アミメハギ (カワハギ科)

● アサヒアナハゼ (カジカ科)

1998年7月、二色小学校3年生の市原唯衣里さん親子が二色の浜の海で採集しました。いずれも一般に沿岸にいる魚ですが、ハオコゼは背びれに毒腺のある棘を持ち、刺されると痛むので素手でさわらないようにしましょう。



ハオコゼ

(山田 浩二)

千石荘、夏の雑木林の昆虫

1998年7月11日、ウィークエンドレッスン「オオキンカメムシをさがそう！」は残念ながら雨天のため中止となった。しかし、遊学館行事としては中止でも、ぜひ行こうという少年少女、それに、彼等の熱意に答えた遊学館の職員合わせて11人で、オオキンカメムシの発見とクワガタムシなどクヌギの樹液に集まる昆虫を期待して、午前11時から正午まで、“びしょぬれ観察会”が行われた。やはり強い雨の中、林内のクヌギの樹液に集まる昆虫の観察・採集は成功といえたが、草原や林縁では昆虫たちは姿を隠していたようだ。そこで、1週間前の下見と合わせて、両日の成果を以下に記録したい。

①オオキンカメムシ調査のまとめ

7月4日には1♂1♀合計2頭が発見された（いずれも上久保館長が発見）が、11日は0頭。11日に成虫を見つけることができなかったのは、雨天の影響があろう。しかし、両日とも卵塊を発見できなかったことから、1998年7月上旬、千石荘シナアブラギリ林では、繁殖は行われていないことになる。

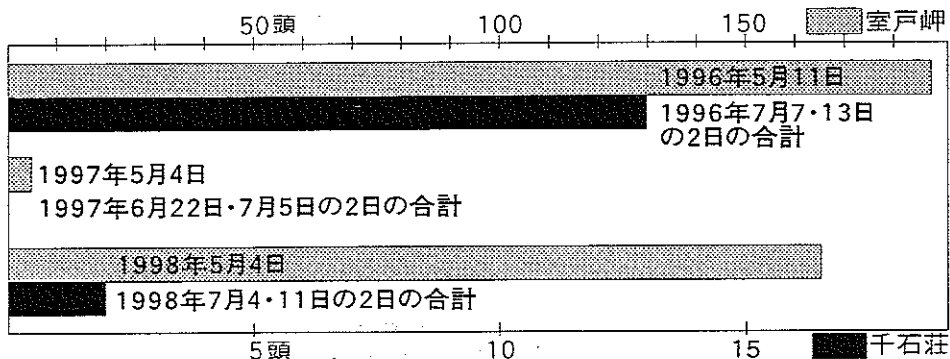
繁殖地である千石荘の夏のオオキンカメムシ調査は今年で3年目となる。越冬地の高知県室戸岬では毎年5月上旬に成虫のマーキング調査を行っている。越冬地と、約2カ月後に行っている千石荘での観察個体数をグラフにしてみた。

大平洋側で越冬したオオキンカメムシが5月中旬に分散し、アブラギリ・シナアブラギリを目指し北上することは、これまでの調査からほぼ確実であるが、室戸岬のオオキンカメムシが貝塚市へ飛んでくるというのは、筆者らの願望であって根拠はない。

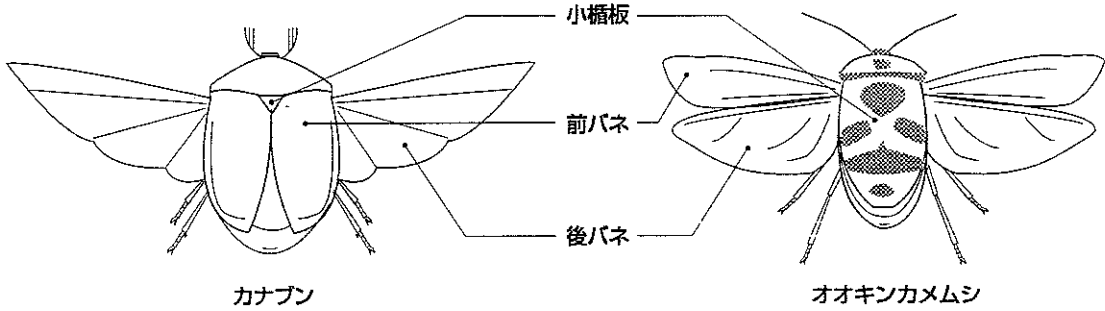
しかし、毎年、越冬地の個体数と繁殖地の個体数には下のグラフから比例の関係が見い出される。予想できた結果とはいえ、3年連続の2地点の付け合わせデータは、これまではなく、雨と蚊と戦いながらの千石荘の地道な調査の賜物である。1997年は越冬地でわずかに3頭、千石荘は0。納得できる。

1998年は96年に比べ、千石荘での個体数がやや少ないようで、7月11日の強い雨による理由が考えられるが、例年より1週間程度、到着が遅れているのではないかと筆者は推測している。

<室戸岬(越冬地)と千石荘(繁殖地)のオオキンカメムシ成虫の個体数>



＜よく似た飛び方をするカナブンとオオキンカメムシ＞



②夏の千石荘の昆虫とその特徴

1998年7月4日、11日に観察・採集された昆虫のリスト及び調査したメンバーは次の通り。(—部は11日のみ観察された昆虫)

＜チョウ・ガ＞コミスジ・キタテハ・イチモンジチョウ・ツマグロヒョウモン・サトキマダラヒカゲ・クロヒカゲ・コジャノメ・ヒメウラナミジャノメ・モンシロチョウ・ナミアゲハ・アオスジアゲハ・クロアゲハ・ウラギンシジミ・ミヤマセセリ・キマダラセセリ・ホソバセセリ・オオチャバネセセリ・ヤマトシジミ・ベニシジミ・ルリシジミ・コガタノキタバ・カギバトモエ・ノコメセダカヨトウ・オオケンモン・ヒロヘリアオイラガ・マエアカスカシノメイガ

＜カメムシ・セミ＞オオキンカメムシ・マルカメムシ・ウズラカメムシ・ツマキヘリカメムシ・ホシハラビロカメムシ・メダカナガカメムシ・ヒメナガカメムシ・スカシヒメヘリカメムシ・オオメナガカメムシ・イトカメムシ・アメンボ・オオアメンボ・ミズギワカメムシ・アブラゼミ・クマゼミ・ニイニイゼミ・アオバハゴロモ

＜バッタ・キリギリス・カマキリ＞ヤブキリ・キリギリス・ウスイロササキリ・ヒメギス・クサキリ・ホシササキリ・エンマコオロギ・ヒナバッタの1種・オオカマキリ(以上幼虫)・ナキイナゴ・コロギス・シバズ

＜トンボ＞コシアキトンボ・オオシオカラトンボ・ウスバキトンボ・ギンヤンマ・アオイトトンボ

＜ハチ＞オオスズメバチ・コガタスズメバチ・フタモンアシナガバチ・ヤマトアシナガバチ・ホソアシナガバチ・ミツバチ・スズバチ

＜アブ＞モンキアシナガヤセバエ・ハチモドキハナアブ

＜甲虫＞ヤコンオサムシ・タマムシ・オオゾウムシ・オナガコメツキ・コクワガタ・ヒラタクワガタ・カブトムシ・アオカナブン・カナブン・シロテンハナムグリ・コイチャコガネ・セマダラコガネ・マメコガネ・ナミテントウ・ナナホシテントウムシ・キンケトラカミキリ・キマワリ・ニジゴミムシダマシ・ヨツボシケシキスイ・オオケシキスイ

＜7月4日に調査したメンバー＞上久保・白木・山田・大築・湯浅・澤田・竹本

＜7月11日に調査したメンバー＞上久保・白木・山田・湯浅・寺田・鹿子島・松谷・川部(博、直子、彰吾)・竹本

以上の昆虫リストから、千石荘は平野部に孤立しながらも、現在も安定した生態系をもつ雑木林だといえる。また、ホソバセセリ・オオケンモン・ホソアシナガバチなど低山地から山地性の昆虫相を含むことは、特筆すべきことで、千石荘の(現代では)特殊な昆虫分布の解明に尚一層力を注ぐべきである。

残念ながら、子供たちが参加した11日は精力的な調査にもかかわらずオオキンカメム

シを発見することはできなかつた。しかし、ときどき林内を飛ぶカナブンをオオキンカメムシとまちがって全員で盛り上がったことは、おもしろかつた。この2種の飛行時の翅の使い方はまったく異なるが、カナブンは上翅をオオキンカメムシは小楯板を少し持ち上げて飛行する姿がよく似ているので間違われる。カナブンはハナムグリ類は他のコガネムシの仲間と違い、前翅をいっぱいにかかない特異な飛行スタイルである。また、オオキンカメムシのようにカメムシの仲間でも小楯板が発達したキンカメムシ亜科だけがカナブンのような飛び方にみえる。

どちらも飛行速度は速く、安定度は高い。長距離を飛ぶオオキンカメムシに高い飛行能力がそなわっていることが分かる。また両者とも腹部が露出しない点で、鳥の攻撃から逃れやすいのかも知れない。

③大阪府南部新記録か、タカチホヘビ、千石荘に産す！ 爬虫類班を作って捕獲しよう！

7月11日昼前、子供たち待望のクヌギの樹液レストランの観察のため、雑木林の奥へ入る。その前に、上久保館長が入り口のクヌギの根際を少し掘ると、出てくる出てくるコクワガタが。幸先良し。おまけにヘビも出てきた。このヘビは30cm程度の幼蛇で、体は褐色、腹側は薄い黄色で目は小さかつた。だいたいヘビが出現すると、誰かが「マムシや！」と大声を出すのは慣れている。これは最悪の場合マムシかも知れないという戒めの檄であろうが、この日もその声に惑わされて一瞬ひるんだ（普段爬虫類が虫の次に好きだと言っている筆者として面目がない）。

少々言い訳となるが、幼蛇は成蛇と違う斑紋が出たり、体色も違うので、その場でこのヘビの種名を明らかにすることができなかつた。とすれば、採集して持ち帰るのが鉄則だが、その時は、まさか珍しいタカチホヘビは眼中になく、田んぼが近くにあることから、ヒバカリかシマヘビの幼蛇くらいにしか思っていなかつた。

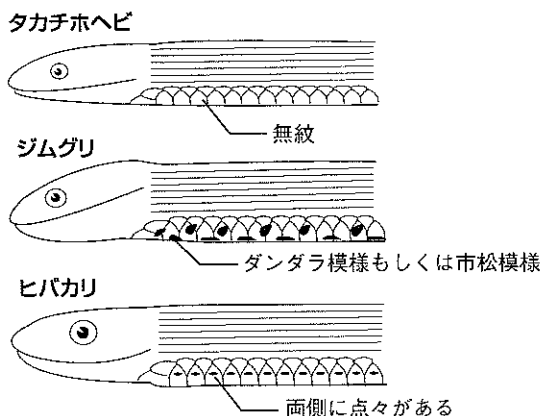
ところが、帰りの電車の中でよくよく考えると雨の日に土中から出てきたこと、頭と目が小さかつたこと、腹に紋がなかつた褐色のヘビであったこと、そうだ、あの気品あるフォルムはタカチホヘビであったのだと悔いた。そして、帰宅して図鑑・資料を調べて間違いなことが分かつた。

オオキンカメムシの継続調査とともに、新たにタカチホヘビの調査・採集をしたいと思う。小雨の中や雨後すぐに千石荘を訪れることがこのヘビに出会えるチャンスである。

雨の日もフィールドへ出るべし。今年も夏の千石荘に胸を踊らせられ、新たな宿題を出された。遊学館の皆さんにお礼申上げる。

(カメムシ研究会 / 竹本 卓哉)

<褐色の幼蛇3種の見分け方>



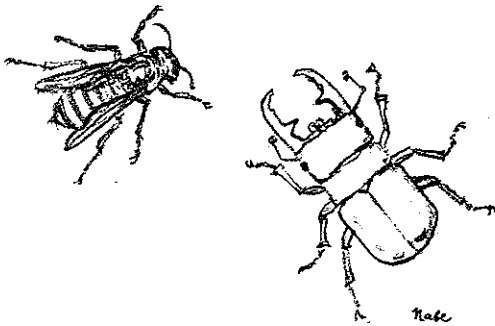
千石荘での昆虫採集

1998年8月2日

朝4時起床4時25分頃出発、4時45分頃到着。まだ薄暗い、田んぼでは、ウシガエルが鳴いていた。どンドンやぶを押し分けながら進んでいくと、アブラギリが、あるところまで来た。よく見たけどオオキンカメムシは、いなかった。どンドン進んでいくと、クヌギが見えて来た。木がえぐれて樹液が出ていてスズメバチやカブトムシなども寄ってきていた。えぐれている奥に甲虫がいたので、ピンセットで引っぱり出すと53mmのヒラタクワガタのオスだった。その他にもヒラタクワガタのメスやコクワガタのオスなどもとれた。

(二色小6年3組 松谷 賢)

松谷君は将来が楽しみな昆虫少年です。カメムシ研究会の竹本さんの指導のもと、千石荘で採集した甲虫類に感激し、1ヵ月後の早朝、再びお父さんと出かけたときの記録です(編集子)



寄贈標本

昨年は下記の3氏より貴重な昆虫標本の寄贈を受けた。これら標本は貝塚市の自然のありようを知るためにも、自然遊学館の活動のためにも極めて価値あるものなので、市から

感謝状が贈呈された。

以下3氏の活動の概要と寄贈標本について簡単に説明する。

西村恒一氏

貝塚市地蔵堂にお住いで、府の税務課職員としてのお仕事のかたわら長年にわたって貝塚を含め近畿一帯のチョウの推移を見守ってこられた。氏の作られる標本は実に素晴らしく、たとえ網に入れても傷んだものは逃がし、標本にはしないという方針をとっておられる。採集歴は約10年とのことである。

西村氏による寄贈標本の詳細は自然遊学館だよりNo. 14: 2-4に“西村常一氏により寄贈された昆虫類の標本”として記されている。なお、この中で寄贈者名が誤って常一氏となっている。慎んで恒一に訂正します。チョウ目

アゲハチョウ科: ジャコウアゲハ, キアゲハ, アゲハ, オナガアゲハ, カラスアゲハ, ミヤマカラスアゲハ 計73個体

シロチョウ科: モンキチョウ, キチョウ, ツマキチョウ計22個体

タテハチョウ科: メスグロヒョウモン, ミドリヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモン, イチモンジチョウ, アサマイチモンジ, ミスジチョウ, サカハチチョウ, ヒオドシチョウ, アカタテハ, イシガケチョウ, スミナガシ, ゴマダラチョウ計67個体

ジャノメチョウ科: ジャノメチョウ1個体

シジミチョウ科: ムラサキシジミ, アカシジミ, トラフシジミ, コツバメ, ルリシジミ, ヤクシマルリシジミ計43個体

セセリチョウ科：アオバセセリ計6個体

トンボ目

ムカシトンボ科：ムカシトンボ1個体

以上合計215個体

小里隆孝氏（和寛氏はご子息）

泉佐野市高松にお住いで、ご家族と共に泉南地方のみならず長野県、岐阜県などの好採集地で集められた貴重な標本が含まれている。採集歴は20年におよぶ。

チョウ目

アゲハチョウ科

ウスバシロチョウ：1 ex., 立山；ジャコウアゲハ：1 ex., 別所谷；アオスジアゲハ：1 ex., 椿；キアゲハ：1 ex., 銀山峰；アゲハ：2 exs., 泉佐野市；モンキアゲハ：1 ex., 生石山；クロアゲハ：1 ex., 百間山；オナガアゲハ：1 ex., 祖母山；ナガサキアゲハ：1 ex., 末広公園；カラスアゲハ：4 exs., 長滝, 弓手原, 黒川；ミヤマカラスアゲハ：1 ex., 戸台川。

シロチョウ科

モンキチョウ：4 exs., 上之郷, 弓手原；キチョウ：4 exs., 椿, 羽倉崎, 白水, 護摩壇山；スジボソヤマキチョウ：2 exs., 戸台川；スジグロシロチョウ：3 exs., 葛城山, 椿, 戸台川；モンシロチョウ：4 exs., 鞍馬, 葛城山, 泉佐野市；ツマキチョウ：2 exs., 犬鳴山。

シジミチョウ科

ウラギンシジミ：2 exs., 犬鳴山；ムラサキシジミ：3 exs., 椿, 百見山；アカシジミ：1 ex., 別所谷；オナガシジミ：1 ex.,

戸台川；ミズイロオナガシジミ：2 exs., 東俣谷, 弓手原；ミドリシジミ：2 exs., 護摩壇山；アイノミドリシジミ：2 exs., 池ノ俣谷；オオミドリシジミ：1 ex., 駒ヶ岳；コツバメ：1 ex., 稲倉谷；トラフシジミ：1 ex., 稲倉谷；ベニシジミ：1 ex., 泉佐野市；ヤマトシジミ：3 exs., 祖母山, 椿, 末広公園；シルビアシジミ：1 ex., 末広公園；オオゴマシジミ：2 exs., 湯川；ツバメシジミ：2 exs., 泉佐野市, 別所谷。

テングチョウ科

テングチョウ：3 exs., 友ヶ島, 葛城山。

マダラチョウ科

アサギマダラ：3 exs., 祖母山, 伯母子岳。

タテハチョウ科

コヒョウモン：3 exs., 銀山平, 湯川；ウラギンスジヒョウモン：1 ex., 銚子谷；オウラギンスジヒョウモン：1 ex., 護摩壇山；ミドリヒョウモン：3 exs., 葛城山, 弁天岳；メスグロヒョウモン：1 ex., 稲倉谷；ツマグロヒョウモン：5 exs., 葛城山, 護摩壇山；ウラギンヒョウモン：3 exs., 護摩壇山, 戸台川；ギンボシヒョウモン：1 ex., 護摩壇山；コヒョウモンモドキ：2 exs., 池ノ俣部落, 湯川；オオイチモンジ：1 ex., 湯川；イチモンジ：1 ex., 百間山；アサマイチモンジ：1 ex., 別所谷；オオミスジ：1 ex., 銚子谷；ミスジチョウ：2 exs., 湯川, 戸台川；コムスジ：1 ex., 泉佐野市；フタスジチョウ：1 ex., 戸台川；サカハチチョウ：2 exs., 鞍馬, 戸台川；キタテハ：1 ex., 長滝；シータテハ：1 ex., 池ノ俣谷；ヒオドシチョウ：3 exs., 弁

天岳，護摩壇山；エルタテハ：1 ex.，湯川；クジャクチョウ：3 exs.，池ノ俣部落，戸台川；アカタテハ：1 ex.，生石山；ヒメアカタテハ：2 exs.，葛城山，六十谷；ルリタテハ：2 exs.，葛城山；イシガケチョウ：1 ex.，生石山；スミナガシ：3 exs.，葛城山，蕎原；コムラサキ：2 exs.，別所谷；クロコムラサキ：1 ex.，祖母山；ゴマダラチョウ：3 exs.，蕎原，上之郷，泉佐野；オオムラサキ：1 ex.，黒川。

ジャノメチョウ科

ヒメウラナミジャノメ：1 ex.，泉佐野；ベニヒカゲ：1 ex.，駒ヶ岳；クモマベニヒカゲ：1 ex.，仙水峠；ジャノメチョウ：1 ex.，白水；ヒメキマダラヒカゲ：3 exs.，伯母子岳，護摩壇山，祖母山；ヤマキマダラヒカゲ：3 exs.，護摩壇山；サトキマダラヒカゲ：2 exs.，上之郷，神原；ヒメジャノメ：1 ex.，上之郷；コジャノメ：1 ex.，泉佐野；クロコノマチョウ：1 ex.，由良（紀伊）。

セセリチョウ科

ミヤマセセリ：2 ex.，稻倉谷；ダイミョウセセリ：1 ex.，椿；キバネセセリ：1 ex.，戸台川；アオバセセリ：3 exs.，葛城山，弓手原川，祖母山；スジグロチャバネセセリ：2 exs.，守門村，戸台川；ホソバセセリ：1 ex.，上之郷；オオチャバネセセリ：1 ex.，泉佐野；クロセセリ：2 exs.，白水，神原。

ヤガ科

ハグルマトモエ：1 ex.，白水；キクキンウワバ：1 ex.，戸台川。

コウチュウ目

ハンミョウ科：15；オサムシ科：8；ゴミ

ムシ科：27；ハネカクシ科：14；クワガタムシ科：20；クロツヤムシ科：2；センチコガネ科：4；コガネムシ科：142；タマムシ科：15；コメツキムシ科：38；テントウムシ科：16；カミキリムシ科：239；ハムシ科：41；ゾウムシ科：45；その他：134。

このほかハエ目，ハチ目，トンボ目，アミメカゲロウ目，カメムシ目の312個体。

以上合計1，222個体

菊池行道氏

菊池氏は昭和60年（1985）にお亡くなりになり，ご遺族が氏の残された大コレクションを，このたび遊学館に寄贈されたい旨のお申し出でがあり，実現したものである。氏は大正4年（1915）京都でお生れになり，幼少の頃は，中国東北部（旧満州）で過ごされた。昭和16年より大阪府立岸和田高等女学校（後に府立和泉高等学校と改名）で生物学の教鞭をとられると同時に，昭和40年（1965）より20年間“向丘自然に親しむ会”を主催，多くの自然愛好家を育成され，この地域の自然研究の中心的役割を担っておられた。

寄贈標本は日本各地の，それも近年は天然記念物に指定されたために採集禁止になった種を含み，台湾，韓国をはじめ海外のものも多くみられ，きわめて貴重なものである。数もきわめて膨大であるので，今回の紹介は感謝状の対象になったドイツ箱収納の標本に留めておく。

（黒子 浩）

箱 n o.	内 容	個 体 数
1.	南大阪の蝶. アゲハチョウ科 (ジャコウアゲハ, オナガアゲハ, ギフチョウなど)	2 1
2.	南大阪の蝶. アゲハチョウ科 (ジャコウアゲハ, ギフチョウ) シロチョウ科 (キチョウ, ツマキ, スジグロなど)	1 1 4 3
3.	南大阪の蝶. ジャノメチョウ科 (ジャノメ, キマダラモドキ, ヒメヒカゲなど) マダラチョウ科 (アサギマダラ)	2 5 4
4.	南大阪の蝶. タテハチョウ科 (ヒオドシ, スミナガシ, オオウラギンヒョウモンなど)	4 0
5.	南大阪の蝶. タテハチョウ科 (オオムラサキ, ゴマダラ) セセリチョウ科 (アオバセセリ, ミヤマセセリ) シジミチョウ科 (ウラゴマダラ, ミドリシジミ, ムラサキシジミなど)	6 1 6 4 0
6.	ギフチョウ, ヒメギフチョウなど	8 3
7.	オオムラサキ, チョウセンオオムラサキ	2 4
8.	タテハチョウ科 (キベリタテハ, コヒオドシなど)	7 3
9.	タテハチョウ科 (ミスジチョウ類)	5 8
1 0.	アフリカ産蝶類 (カラクセス類)	3 4
1 1.	沖縄産蝶類 (オオゴマダラ, コノハチョウなど)	6 5
1 2.	台湾産蝶類 (アケボノ, ベニモン, ジャコウなど)	2 2
1 3.	台湾産蝶類 (オオゴマダラ, ワモンチョウなど)	4 7
1 4.	外国産アゲハチョウ類 (オオルリアゲハ, テングアゲハ)	2 5
1 9.	ミカド, アオスジアゲハなど	3 5
2 0.	ベニヒカゲ, クモマベニヒカゲ, タカゲヒカゲなど	8 3
2 2.	ウスバシロチョウ, ヒメウスバシロチョウなど	5 4
2 5.	モンキアゲハ, ナガサキアゲハなど	2 0
2 6.	ヒメシロ, モンシロ, ミヤマシロチョウなど	8 1
2 7.	キチョウ, ツマグロキチョウ, ヤマキチョウなど	7 4
2 8.	ミヤマモンキチョウ, モンキチョウ	5 6
2 9.	コムラサキ, イシガケチョウ, スミナガシ	4 4
3 0.	オオムラサキ	3 3
3 2.	沖縄産蝶類 (アゲハ, マダラ, シロチョウ類など)	5 1
3 3.	クワガタムシ科	6 1
3 4.	シジミチョウ科 (アカシジミ, ウラキン, ウラクロ, エゾミドリ, カラスシジミなど)	1 0 0

1 3 2 9

寄贈昆虫標本展のお知らせ

と き 1998年（平成10年）10月17日（日）～10月25日（日）

時 間 午前9時～午後9時

と き 自然遊学館多目的室

その他 無料

*10月17日（日）緑化フェア

*10月24日（土）自然遊学館設立5周年記念祭

自然遊学館だより

1998夏号 No. 16

編 集 白 木 江都子

発行者 上久保 文 貴

発行所 自 然 遊 学 館

貝塚市二色3丁目26-1

休館日 毎週火曜日